科学研究費報告書

はしがき

飯塚恵理人

本研究は、東海地域の近世・近代の能楽資料を収集し、そこから近代の東海地域の能楽史を構築することを目的とした。本研究は、平成９年４月に開館した名古屋能楽堂展示室のテーマ、「名古屋の能楽の歴史」の展示資料収集を出発点としている。東海地域で明治維新以降現在まで、どのような人がどのような曲を演じたのかを明らかにするため、平成６年より大倉流大鼓方筧鉱一師収集の東海地域能楽番組約5000枚のデータベース化に取り組んだ。それは明治元年から昭和63年までの能番組を番組集と人物索引・演目索引をまとめて平成13年7月に出版した『近代名古屋の能楽を支えた人々』(深谷哲監修　三木邦弘プログラム作成　筧鉱一・飯塚恵理人編集　東海能楽研究会発行）に結実した。この本は、東海地域の能楽研究の根本資料として高い評価を受け、東海能楽研究会が平成14年度の愛知県芸術文化選奨文化賞を受け、さらに法政大学より、平成17年度の催花賞を受ける大きな受賞理由となった。

本助成金は、平成14年までのこれらの成果を踏まえた上で、近代から現在にいたる東海地域能楽に関する資料の収集・整理と、現代の能楽に関する資料の収集と保存に心がけた。具体的には、

・東海地域能楽番組データベースに洩れた能番組の収集と入力
・平成15年から17年末までに東海地域で行われた能の番組の収集と入力
・能楽の伝書・謡本・近世の能番組の収集と翻刻
・戦前・戦後の東海地域の能楽界について書かれた雑誌・新聞記事の収集と整理
・戦前の能楽関連のSPレコードの収集とデジタル保存（WAVファイル作成）
・昭和30年・40年代のオープンリール、昭和50年代以降の謡曲の稽古用のカセットテープを収集し、謡曲・狂言の音声を保存する。

を行った。論文としてまとめた成果については以下の通りである。それ以外では、

・「能楽番組検索システム」（東海能楽データベース）を三木邦弘先生のホームページ（http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~miki/search.html）より発信した。
・「能楽の友」の昭和41年の創刊号から平成15年までのバックナンバーを主宰の加野昭二郎氏の許可を得てPDF化し、飯塚のホームページである「恵理人の小屋」（http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/%7Eizuka/erito1/nougakunotomo.htm）より配信している。

研究組織

研究代表者
飯塚恵理人（椙山女学園大学文化情報学部助教授）　能楽資料の収集と整理
研究分担者
三木邦弘（椙山女学園大学現代マネジメント学部助教授）　能楽番組のデータベース化に関するソフト開発

研究経費

平成15年度	50万円
平成16年度	50万円
平成17年度	50万円
計	150万円

研究発表[学会誌等　全て本報告書に収録した。本研究にとくに関連するものについては、その内容についての要約文をつけた。]

〔論文〕

東海地域能楽番組データベースのソフト開発

(1) 能楽番組データのWeb検索システムについて　三木邦弘　本報告書収載

明治元年より平成九年までに東海地域で催された能楽の番組を、演目・人名で検索できる形で三木邦弘助教授のホームページ「能楽番組検索システム」で公開している。この検索システムに求められた課題とその解決策、検索システムの利用方法と利用状況について解説した。

(2) 能楽番組の画像データの扱いに関する考察　三木邦弘

東海地域能楽番組データベースは、番組を入力したデータについて演目・人名の検索を可能にして三木邦弘助教授のホームページより公開されている。ただし、能番組では、人名の大きさや位置などにも意味があるが、そのような情報は入力されたデータからは欠落してしまう。このことから、能楽番組の画像をJPEGとしてデータベースに取り入れ、「会名」からリンクさせて表示する方法について述べた。

東海地域能楽資料の収集と整理

(1)「静岡県三ケ日町の能・狂言装束」日本風俗史学会中部支部「民俗と風俗」　第14号　飯塚恵理人　正田夏子　高橋春子　鈴木貴詞　平成16年3月　P.71-P.86（静岡県引佐郡三ケ日町では、江戸時代前期まで寺や神社を中心に能が行われていた。この地区の能は喜多流能役者の服部親子によって指導され、愛知県新城の能にも影響を与えている。この三ケ日町に保存されている能装束を今回調査し、仕立てなどに装束形態の変遷を伺わせる貴重な物であることを明らかにした。）

(2)「初代藤田清兵衛の環境―名古屋市立博物館『学びの世界』展より―」　飯塚恵理人　椙山女学園大学　「椙山女学園大学研究論集」　第36号　平成17年3月発行　P.35-44　（平成11年に名古屋市博物館で行われた『学びの系譜』展のコーナー展示で紹介された『いろは狂歌』と『笛彦兵衛【切取不明】両人笛之書』の二点を翻刻し、その内容から笛方藤田流宗家初代藤田清兵衛の芸道精進の環境について考察した。）

(3)『「吾妻能」の周辺―「趣味」と「階級」』　飯塚恵理人　椙山女学園大学　「椙山女学園大学研究論集」　第37号　平成18年3月発行　P.35～P.44（大阪大学図書館の読売新聞の記事データベースと『明治建白書集成』から、東京・大阪と名古屋の能楽関係記事、芸能関係記事を抽出し、吟味した。そこから明治初年において、能楽が遊里の雰囲気のない健全な娯楽として、華族など上流階級の「趣味」にふさわしいとされていたのに対し、「清元」「新内」「浄瑠璃」などは心中・駆け落ちなど反社会的な題材を取り扱っているものとされ、取り締まられていたことについて述べた。そして、明治維新時期に一旦能は衰えたが、能楽師はこの「上流階級にふさわしい趣味」という当時の能楽観に後押しされた華族や、上流階級に上がってゆきたい新興商人の保護を受け、徐々に復活して行ったことについて述べた。）

(4)「数寄者の時代―関戸家と能楽との関わりを中心に―」　飯塚恵理人　東海能楽研究会十周年記念論集　平成17年5月発行　P20-30

〔研究ノート〕

(1)「尾張藩の謡初―年頭の「謡」関連の諸行事とともに―」　飯塚恵理人　東海能楽研究会　東海能楽研究会年報　第8号　P1-2 平成16年3月

(2)「能楽の普及と『階級』―大正初期の能楽観―」　飯塚恵理人　東海能楽研究会　東海能楽研究会年報　第9号　P4-5 平成16年3月

〔翻刻〕
(1)「名古屋狂言共同社所蔵山脇和泉家伝来九冊組間狂言本（一）」　飯塚恵理人　平成15年12月　名古屋芸能文化会　「名古屋芸能文化」　第13号　P. 93—P. 115
(2)「新城　川村類造手沢本　『高安流脇仕舞附　乾』」　飯塚恵理人　椙山女学園大学国文学会　「椙山国文学」　第28号　平成16年3月　P. 89—P. 117
(3)「豊嶋十郎筆『高安流仕舞附　天』（一）」　飯塚恵理人　名古屋芸能文化会　「名古屋芸能文化」第14号　平成16年12月P. 81—P. 107
(4)「豊嶋十郎筆『高安流仕舞附　天』（二）」　飯塚恵理人　名古屋芸能文化会　「名古屋芸能文化」第15号　平成17年12月P. 91—P. 116〔(3)（4）とも。　広島の原爆で亡くなった豊嶋要之助所持の高安流脇方伝書を豊嶋十郎が筆写した『高安流脇仕舞附』を翻刻して「名古屋芸能文化」に投稿した。〕
(5)「川村類造手沢本『高安流世理賦附　坤』」　飯塚恵理人　椙山女学園大学国文学会　「椙山国文学」　第29号　平成17年3月　P. 47—P. 76
(6)「三須錦吾家・山本東次郎家の代々—岡藩の能楽関係資料—」　飯塚恵理人　椙山女学園大学国文学会　「椙山国文学」　第30号　平成18年3月　P. 65—P. 88（豊後岡藩中川家に仕え、明治期の能楽衰退期の華族能に出演して能楽の復興に功績のあった幸流小鼓方三須錦吾と大蔵流狂言方山本東次郎について、岡藩藩主中川家に残る両人の「勤録」を調査した。この結果、二人とも能楽師として抱えられているのではなく、門番・坊主など藩主の世話係として抱えられていることがわかった。但し「勤録」には、「坊主」としての仕事以外に勤めとして藩主の能の稽古、藩の宴会の場の能楽演奏を行っていることが書かれており、能楽師としての側面もあった。竹田藩は能役者として専門のものを抱えるのではなく、能楽に達者なものを坊主で抱えて両方の仕事をさせるという形をとっている。このような他の職も兼業できて能楽に生活費の全てを依存しないものの方が、明治維新の混乱期で「能楽」の催しが少なかったときでも能楽を継続する上に有利であったことがわかった。）

「名古屋」の「芸風」の解析
(1)「名乗り笛」演奏のソナグラムおよび楽譜化による分析」　一色忍　渡辺康　飯塚恵理人　椙山女学園大学文化情報学部　「椙山女学園大学文化情報学部紀要」　第3巻　平成16年3月　P. 71—P. 85（能でワキが幕を出てから舞台へ行き名乗るまで演奏されるのが「名乗り笛」である。本稿は「名乗り笛」のソナグラムおよび楽譜化を行い、藤田流と森田流での比較を行った。楽譜上では流派・演奏者の差よりも、各演奏時の差の方が顕著だか、ソナグラム上では演奏者にかかわらない「流派の差」があることが明らかになった。）
(2)『能楽囃子「隅田川」カケリの楽譜化とその特徴について』　渡辺康　飯塚恵理人　（椙山女学園大学　「文化情報学部紀要」　第5巻　平成18年3月）（「隅田川」のシテの出の特徴的な囃子である「カケリ」について、名古屋能楽堂で行われた四つの演奏を比較し、その相違点・類似点について検討し、その特徴を明らかにした。）

「国文学」への応用研究
(1)「夢幻能の世界　眼に見えぬものとの対話」　飯塚恵理人　名古屋学生能楽連盟　「学生能・狂言の会パンフレット」　平成16年1月　P14-17（夢幻能ではワキの前に幽霊が現れる。しかしその幽霊は、普通我々が幽霊出現の理由として考える「恨み」によって現れるのではない。「弔いを求める」「この世での幸福な思い出に執着する」「仏となって所縁の人を悟りに導く」という理由によるのであり、夢幻能を鑑賞するときには、そのことに注意しなくてはならない。

(2)「和漢朗詠集から謡曲へ」　飯塚恵理人　　学燈社　「国文学」　第49巻第10号　　平成16年９月　P. 29～P. 35（和漢朗詠集から謡曲に引用された漢詩について、その引用総数、頻度などを挙げると共に、《西行桜》《千手》などの謡曲での受容例を検討し、謡曲は朗詠の「言葉」を採っているものの、その「題」や「内容」を採っているのではないことが多いことを示した。）
）

(3)「《姨捨》試解―　わが心　なぐさめかねつ」　単著　飯塚恵理人　平成18年3月　「紫明」18号　紫明の会　P70-75　《姨捨》の老女の「執心」と曲の狙いについて、謡曲本文に沿って解釈を試みた。老女は名月に魅入られたままその場で亡くなった。「捨てられた」ことによって老女が手に入れた名月の夜は、死んでなお幸福な思い出として残った。その幸福を求める「執心」によって老女は成仏することが出来ず、仲秋の名月の夜ごとに「月の友」を求めて「姨捨山」に現れると述べた。

こども用能楽教材への応用研究

(1)「中学生向け能楽ビデオ教材の開発について―能《小鍛冶》狂言《附子》を中心に―」単著　飯塚恵理人　平成16年3月　（椙山女学園大学　「椙山女学園大学研究論集」　第35号　「人文科学編」　　P. 1～P. 11）（中学生向けの能楽ビデオ教材の開発を目的とし、能《小鍛冶》と狂言《附子》を紹介する事前学習ビデオを作成し、その内容を論した。《小鍛冶》では中学生達が当日、能を鑑賞する際に、事前にビデオで学習した知識が活かせるよう、これと連動したイヤホンガイドを行うことを想定し、その原稿も作成、検討した。）

番外　論文作成中

幕府の金春座の役者で代々尾張藩の扶持を受けた金春八左衛門家の最後の当主である金春朋之助（安治）の墓が発見され、朋之助の明治維新後の動静について調査した。途中経過が中日新聞2月18日朝刊33面と東京新聞2月25日夕刊に「金春八左衛門の墓発見」として報じられた。本研究報告書には中日新聞掲載の記事を参考として収めた。